

生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討懇話会 第3回会議録

1. 日時

令和7（2025）年11月18日（金）9：15～10：30

2. 場所

生駒市役所 4階

3. 出席者

【有識者】6名

佐野修久氏、船本淑恵氏、武田重昭氏、佐々木啓氏、高松俊氏、領家誠氏

【事務局】4名

米田建設部長、巽みどり公園課長、高橋みどり公園課課長補佐、関口みどり公園課主任、塩田みどり公園課

事務員

欠席者

増田昇氏

4. 傍聴者

なし

5. 議事要旨

1) 開会

・新たなランドエスケープの専門家である、武田氏を紹介。座長については佐野氏とすることを説明。

2) 案件

(1) 生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討について

- ・資料1について、事務局より説明
- ・佐野座長の進行により助言をいただく

(1) 生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討について

- 市内利用が半数程度ということであるが、観光の観点からは悪いことではない一方、市の公共施設としては判断が難しい。今後、収益性のある施設としてより良いものを再整備していくと、利用料金を上げざるを得ない場面も生じるので、市民が利用しやすい施設となるように市民割の導入など料金体系を工夫すべき。

アクセス手段の問題もあるが、モニターツアーの開催やインフルエンサー等による PR を通じて、子育て世代層にもなりうる若年層を引き付けることもできる。

また、健康増進目的で利用されていないという課題もあるが、現在は温浴施設にジムを併設している施設も多く、他にはヨガやピラティス教室の開催なども有効な手段と思われる。

生涯学習の振興では、せっかくの自然を活用した博物館展示施設の設置や、それに付随した自然体験活動イベントを実施することで目的が達成できる。

- 温浴施設に関して、事業者ヒアリングでは浴場だけでなく、サウナや飲食の強化、休憩施設が必要という意見をいただいたので、改善を図るべきと考えている。生涯学習の機能に関しては、動々池の自然観察等の活用ができるない資源を活用していきたい。
- 市内の中学校による団体利用では、どのような活動が行われているのか。
自然が豊かな場所なので、学習コンテンツが充実されれば四季折々に訪問したくなるような施設になってくるのではないか。
現状の使い方では遊び場としての施設が中心になってしまっているので、自然体験学習に対応したプログラム等の整備が活性化を図るうえで有効ではないか。
- 宿泊、オリエンテーリング等のチーム活動、バーベキューエリアでの飯盒炊飯、ツリーイング、フィールドアスレチック等の活動が行われている。
現状自然観察等の学習体験機能はない。指定管理者による野鳥観察会、星空観察等のイベントは開催されているが、団体利用向けの学習コンテンツは十分ではない。
- ここまで懇話会では、仮説やアイディア等が色々出たが、あり方の検討で十分整理されないまま固まりつつあるように感じる。現指定管理者のスタッフは意欲的で、生の声を深堀りする余地があると思う。
市内の中学校の団体利用が盛んで、学校の先生方の意見も重要だと思うが、意見を確認する前に、あり方が固まりつつあるように思う。増田氏の意見として、いくつかのパターンとそれに対応したペルソナを整理し、それを踏まえた検討を行うという考え方があったと思うが、こうした検討の流れに対する意見からすると、少しづれが生じているように思う。
- 現時点では、懇話会のご意見を受けて種々の調査を実施しているにも関わらず、それが途中段階で「あり方」の方向性等をお示ししていることへの意見であると受け止めた。この点は事務局としても心苦しく思っており、先生方の都合がつくのであれば、追加して5回目の懇話会を開催し、4回目にしっかりと調査報告をお伝えした上で、最終の5回目にあり方を固めるというスケジュールに変更できればありがたい。
- 「市民向けの公園」と「市外からの広域的な集客を目指す公園」という2つのあり方があり、指定管理者からは広域的な集客を目指すためのアイディアをもらっている。一方で、現在実施している各種調査から市民向け、市外向け双方の意見が得られると思うので、次回4回目の懇話会でそれを示してもらい、それを踏まえた方向性も一緒に示して、議論を深められるのではないか。
- 資料1の「02 現状と課題等」と「03 今後の再整備と管理運営の方針」をつなぐ分析が欠けて

いるので、コンセプト案に唐突感があるという指摘だと思われる。次回の懇話会では、その部分の説明が欲しい。

- ニーズ把握で、課題解決型にとらわれず、未来志向型とするのは必要だが、潜在的なニーズ把握をいかに行うのかが重要。自然環境、景観等の要素を整理されているが、客観的にポテンシャルを整理することも重要と思う。山麓公園の魅力は、昨今の夏場の高温を踏まえると、まちに近いクールスポットとしての利用も考えられるのではないか。そういうものをアピールポイントとして持っておくと、民間事業者にヒアリングする際にも一つのネタにはなる。社会福祉事業者とのコラボレーションも、山麓公園の価値の一つのように思う。この部分についても、ヒアリング等で深めていけるとよいのではないか。他市では、一般社会に障がい者が溶け込みながら、最先端のプロダクションを産み出す取組もある。そういうところを参考に確認してみるのもよいだろう。

事業者ヒアリングに関しては大規模な事業者をヒアリングしているが、もう少し地域密着型の事業者もヒアリング対象になるのではないか。

また、キヤッチフレーズはもう少し具体的に整理すべきと考える。生駒山ならではの特徴や生駒山ブランドについて具体的に推進することも明確にすべきではないか。

生駒山麓公園は社会福祉が根底にあるような施設だと思うので、その点も踏まえて整理を進めてほしい。各々の表現についても「ウェルネス」、「ウェルビーイング」や、「ユニバーサル」、「インクルーシブ」等、どの単語がふさわしいのかは今後検討が必要だろう。

- キヤッチフレーズについては、ご指摘のとおりである。山麓公園における社会福祉の取組は国内でも最初の事例であり、この点を踏まえて、社会福祉の位置づけをより前面に打ち出す方向も考えていきたい。また、山麓公園は生駒市のなかでは唯一森の中にある都市公園であり、その部分で差別化は可能と考えている。この自然豊かな特性を最大限に生かし、今後の取組を展開していきたい。
- 高地にある立地を生かし、夜景や星空を楽しむという活用も可能性としては考えられるが、夜間も開放されているのか。
- スカイラインが午後10時に閉鎖される関係で、山麓公園も同時刻に閉鎖する。朝は6時オープンとなる。ただ、本市としても宿泊に誘導したいという思いもある。指定管理者の企画提案の中には、ナイトウォークも入っており、夜間の活用については検討の余地はあると考えている。
- 基本構想素案の「5. 現状と課題」は、市民等の意向把握を踏まえて整理されているが、公園のポテンシャルも踏まえた視点が必要である。ポテンシャルの項目を独立して設けることで、より分かりやすく構成できると考えられる。現状分析のみに依拠すると、どうしても現状の延長線上の議論に留まりがちなため、未来志向の公園づくりを目指すのであれば、ポテンシャルを踏まえることが重要であろう。
- これまでの議論を踏まえると、次のように整理できるのではないか。コンセプトの整理にあ

たっては、ポテンシャル、現状と課題がどのように結びつくのか明確にする必要がある。また、コンセプトについても、生駒らしさや文言の表現について見直すべきところがある。そのほかいかがであろうか。

3) 閉会

- ・事務局より挨拶と今後の案内

以上